

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を掲げ、その法人の理念に基づいてホームの事業計画を立てている。また、ホームの理念も掲げている。定期的に出外に出掛け、地域との交流も図ることができている。地元小学校との交流で運動会・音楽会に招待され参加した。	法人理念は朝礼の際に1階で唱和し、ホームの理念は事業計画の中やユニット会議で認識を深めている。理念はフロアに掲示しており、外部の方にもわかりやすくなっている。家族には見学や契約時にも理念をわかりやすく説明するようにしている。職員が理念にそぐわない対応をした場合は、背景や原因を探り、指導担当者と一緒にマニュアルを用いて指導するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の美化活動・地域行事として玄蕃まつりに参加・エコウィークを行い地域住民の方達と交流を図りながら清掃活動を行っている	複合施設として自治会に加入し、自治会費を納めている。回覧板も随時回ってきており、地域の情報が得られ、清掃活動やクリーン塩尻活動の一環としての芝桜植えにも参加している。また利用者と地域の祭りに参加したり、利用者の書道の作品を文化祭に出展したりしている。フラメンコのボランティアが来訪したり、ボランティアの方がホームの忘新年会に参加したり、ホームとして建物内でサポーター養成講座や認知症カフェなどを開き、地域との交流を深めている。また同じ建物内の保育園児との交流や近くの小学校の運動会・音楽会に出掛けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症に関する質問・意見が出た際、実践だけでなく、勉強会にて習得した専門的知識を活用し対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。ホームでの取り組み等の報告を行い、意見や指導を頂いている。会議の際に出た意見は、職員にも伝えられている。利用者様も意欲的に参加できている。	年間計画表にそって開催しており、利用者、家族、区長、民生委員、市長寿課職員、事業所職員で構成され、ホームの取り組みや外部評価の報告などを行っている。家族にはホーム便りなどで運営推進会議への参加の呼びかけを行っている。また会議で話し合われた内容はホーム便りに載せて周知を図っている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に塩尻市長寿課へ訪問し、こまめに連絡を取り合っている。取り組みを毎月発行している新聞にて取り組みを伝えているお渡ししているパンフレットは定期的に更新している	市長寿課には随時事故報告や入退去、行事内容の報告などを行い、連携をとっている。市のサービス事業者の発表会や地域包括ケアシステムについての会議などにも参加し、情報を得るようにしている。介護認定の更新は家族と利用者の関係が途切れてしまわないようにこの配慮から基本的には家族が対応し、スタッフは補助するようにしている。毎月2名の介護相談員が来訪し、随時報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の思いを理解し、身体拘束は行っていない。	建物内は集中管理されているが、ユニット間の移動は自由に行える。夜間のみ事故防止のため、本人や家族に了承の上、センサーマットを使用している方が若干名おり、転倒事故を防げている。新規で入居された方が落ち着かないことがあったが、傾聴したり、情報を共有し、法人のグループホーム連絡会で相談しながら対応し、現在は穏やかに生活できている。会議の中で身体拘束の勉強会や話し合いなどを行い、意識を高めている。	

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待防止研修に参加している。現在、自宅や事業所内での虐待のある事実はない状況である。職員間にて日々の業務を振り返り、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修や、計画作成担当者研修に参加し学ぶ機会を持っている。現在制度を活用することが必要な利用者様はいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、契約書・重要事項説明書により説明を行っている。また、解約については、利用者様・ご家族と十分な話し合いの機会を設けて決定している。退居先についても、一緒に考えさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年度上半期と下半期の2回ご家族様宛に調査書を配布・回収し意見、要望について返答を行いそれらを運営に反映させている	独居から入居した方が多いが、家族の来訪は多い方で2日に1回、少ない方で年2回ほどである。家族からの意見は面会時に聞いたり、年2回の家族満足度調査で集計し、利用者の生活やホーム運営の改善に繋げている。調査の回収率は60～70%ほどある。毎月のホーム便りと3ヶ月ごとの利用者個人のお便りを家族に送付し、様子を伝えている。また利用者の誕生日会には家族の参加もあるという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談、ケア会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、ケアへ反映させている	毎月ユニット会議があり、必要時全体会議を開催している。事前に議題を職員から集めたり、レジメを提示したりして、活発な会議になるよう努めている。職員はスーパースターシートに基づいて自己評価し、年度ごとにチャレンジシートで目標を立て、管理者と面談を行っている。それ以外でも随時、管理者との短時間の面談を行っている。また職員は毎月ストレスチェックを行い、溜まっている職員には管理者が声掛けを行っており、必要時はカウンセラーのカウンセリングを受けることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシート、実績評価表を基に個別面接を行うようにしている。優秀職員個人賞、チーム賞、理事長賞等の表彰制度を取り入れており、各職員の意欲に結びつけられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートを用いている。スーパースターシートに基づき、各職員がチャレンジする項目を明確にするようにしている。また、定期的に法人内外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互の活動の様子を情報共有することをしており、それをサービスの質につなげるようにしている。		

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接において、家族だけではなく本人にも必ず同席して頂いて、不安や要望をお聞きするようにしている。面接した内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接において、不安や要望等をお聞きするようにしている。面接した内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が困っているかを必ず聞いている。相談内容からグループホーム以外の利用が適切と判断した場合は、他施設のサービスの概要も説明できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子観察を十分に行い、利用者様の立場に立って、その想いを知るようにしている。利用者様が良い表情であったり、嬉しそうな会話が合った時は、一緒に喜び合う関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来やすい環境を整え家族と過ごす時間を作るよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出に出かける際は、馴染みの場所に出掛けられるようにしている。家族以外の訪問者も、ご家族の承諾を得た上で、受け入れている。	利用者の知人の来訪は随時あり、野菜を持ってきてくれたり、一緒にお茶の時間を過ごしたりしている。また、手紙のやり取りをする方や個人の携帯電話で話をする方もいる。家族と一緒に墓参りをしたり外食をされる利用者もおり、正月に帰省する方もいる。散髪は建物2階に美容室があるため、そこに行く利用者が多い。ユニット間の移動は自由にでき、イベントや有酸素運動などは一緒に行うため、ユニット間の利用者同士の人間関係も築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係は把握できており、一人ひとり職員が間に入り人間関係を築けるようにしている。		

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も定期的な連絡を通じてご本人の状態を把握し、必要に応じてどのようなサービスが必要か一緒に考えている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は本人の表情を観察し気持ちを汲み取っている。	利用者の半分くらいの方が自分の意見を表出でき、随時、意向の把握に努めている。中には運営推進会議に参加される方もいる。意見の表出が困難な方には表情や仕草から読み取るようにしている。利用者のつぶやきを随時書き留め、毎月つぶやきの集計や優先順位の振り分け、分析を行い、ケアプランに反映したり、実行に移している。思いや意向、つぶやきはパソコン内で管理し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞きだしたり、家族からも面会時に聞いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシート・日々のケア記録により把握している。お料理やお散歩など自発的に取り組めるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、認知症状の変化の観察に努める他、利用者様との会話、ご家族との情報交換を大切にすることでケアプランを作成するようにしている。	職員は2~3名の利用者を担当している。担当者がアセスメントし、それを基にユニット会議にてカンファレンスし、計画作成担当者がプランを作成している。モニタリングは基本的には3ヶ月に1回であるが、毎日の細かなケアの実施事項はパソコン上のチェック表で確認している。また、記録はハンディーターミナル端末でリアルタイムに入力している。利用者の状態が変化した場合は、計画を随時更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に会議やカンファレンスを設ける他、申し送り用紙を活用して、情報共有やサービスの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者様がそれぞれの趣味活動に取り組んだり、個々の機能に合わせた運動に取り組んでいる。希望で外出に出掛けることに取り組んでいる。		

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達を施設行事に招いたりすることで、地域との連携を図れるようにしている。無断外出による利用者様の搜索等、警察、消防署と連携が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を優先し家族が対応出来ない場合、職員にて受診を行い結果を家族へ伝達している。日常の様子・変化を正確に伝えられるよう、状況により家族の受診に職員が同伴している訪問診療では家族が立会いのもと診療を行っている。	利用前のかかりつけ医に通院される方もいる。提携医による往診は毎週あり、月1回利用者が受診できるようになっている。受診は関係性継続の視点から家族が付き添うようにしている。状況によりスタッフが付き添うこともあるが、家族への報告はその都度行っている。緊急時には法人の看護師が来訪し、必要時には歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職へ相談し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、またご家族様の不安軽減を図れるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者及びご家族様との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、施設の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りの経験はない。契約時に看取りについて説明を行っている。医療行為が必要になった場合は同じ建物内の特養への住みかえなどを検討している。県内に法人の事業所が複数あり、利用者の状況に応じた住みかえが可能である。法人内で看取りの研修があり、職員が参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル、事故発生時対応マニュアル等のマニュアルを作成して、連絡方法や職員の動きを明確にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員が中心となり定期的に防災訓練を実施している。昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるとともに、全職員へ対応方法を伝達、地域との協力体制も築いている	年2回、昼・夜の火災と地震想定で訓練を行っている。また、毎年地震体験車が来て体験している。秋に市と防災協定を結び、地域の避難場所に指定された。消防署員の講演やドローンの使用、地域の住民が駅から事業所内に避難する大規模な防災訓練を行った。自家発電設備や3日分の食料品の備蓄がある。平成28年度には、はしご車を用いた訓練を行う予定である。	

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した声かけが行えるように、定期的に振り返ることになっている。記録についても、破棄する場合は、シュレッターにかけている。	同性介助を希望される方には同性の職員で対応している。ISO27001を認証取得しているため、個人情報の研修はマニュアルに沿って毎年行われている。利用者の呼び方は苗字に「さん」付けで行っているが、同姓の場合はフルネームで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に選択してもらうことを心掛けて言葉掛けをしている。利用者様を尊重した声かけが行えるように、定期的に振り返ることになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除・洗濯・食事作り・買い物等、その日の利用者様の体調や気分に合わせて参加が行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人・ご家族の希望を確認して理美容の申込みを行っている。着替えの際には、着たい洋服を選んで頂きサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、利用者様とスタッフが一緒に行っている。また、各利用者様の食べたいものをお聞きし、メニューに反映している。	利用者の自立度は自力摂取や声掛けの方がほとんどであり、常食が食材によっては食べやすい大きさにカットして対応している。調理は数名の方が関わっており、シメジをさいたり、モヤシの芽を取ったりする作業にはほとんどの方が関わっている。蕪玉作りやおはぎ作りなどの調理レクにも利用者が関わっている。また地域の方から干し柿や野菜などの差し入れがあり、ホームのベランダでもミニトマトなどの野菜を作り、食卓に上げている。献立はリーダーが持ち寄り作成し、管理栄養士に確認し決定している。認知症に効果のある食材を使用したり、切り方を工夫したり、新人職員にも指導しやすいようにマニュアルを整備するなど小まめに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は把握できており、本人の食べやすい形態に変更するなど柔軟に対応できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声をおかけし、ご本人の出来ることは行って頂いている。就寝時は、スタッフが関わり、口腔ケア行っている。		

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別ケアに反映させ実践できている。紙おむつから布おむつへ移行可能な方を選出し皮膚トラブルの改善に努めている	法人の方針もあり、リハビリパンツから布パンツへ移行する取り組みがなされており、現在布パンツの方が三分の二ほどいる。おむつ使用の方はいない。定時誘導6回と随時誘導で失敗は見られていない。トイレは各居室にありプライバシーは守られ、家族は安心されている。職員は利用者の動きを見てさりげなく介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に繊維質や乳製品を取り入れて希望する方には毎朝牛乳を飲んで頂くなどの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の提供時間は決まってはいるが、その中で希望する時間帯があればその時間に入浴して頂いている。	利用者は週2～3回入浴されている。現在、週3回入浴できるように取り組んでいる。拒否のある方には同性介助や時間を置いたり、気の合う利用者に声掛けしていただくなどの対応をしている。仲の良い利用者2名で入浴されることもある。状態に変化が見られた場合には、同じ建物内特別養護老人ホームのリフト浴を使用することも可能である。入浴を楽しむことができるようにりんご、ミカン、ミントなどのお風呂を行ったり、諏訪の足湯に出掛けることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠・休息状態をアセスメント・評価しており、その内容に基づいて、支援方法を明確にしている。また、疲労の様子が見られた時は、個別に声がけをし、ソファや居室でゆっくり休めるようにサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が確実にできるよう服薬チェック表を使用し、誤薬等ないよう支援している。いつでも薬の内容が確認できるよう、カルテへ薬の情報を入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなテレビ番組が見れるようにしている。また、外出、歌、手芸等、好きなことに参加して頂けるようにしている。食器洗いや掃除等は利用者様も参加することで、生活の張りにつながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物やドライブ、散歩を行っている。毎月のレク担当者による計画を立て、外出、外食、季節毎の行事を行っている。	外出は定期的に行っている。花見やお寺へのお参り、電車で外出したり、お好み焼きを食べに行ったりと外出の機会は大変多い。行事等の外出の際は、事前に担当者が下見をし、ほぼ全員の方が外出できるように配慮している。外出は小グループで行くようにしている。食材の買い出しにほぼ毎日利用者と一緒に出掛けている。有酸素運動を取り入れており、屋外3コースをADLに合わせて選択し、万歩計をつけて歩行している。また記録もつけ、分析もしている。冬季はユニット間の廊下を散歩コースとしている。	

グループホームグレイスフル塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂き、自己管理できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了承を得ている方は、本人の希望時に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に設置するものを購入する際は、利用者様の馴染みがあるものを購入するようにしている。 環境整備係と協力しフロア・居室内の環境整備・各種マニュアルの整備・改定を定期的実施できている	エアコンと床暖房が完備され、廊下には行事の写真がさりげなく飾られ、歌集や雑誌などが置かれている。ホールには季節感が感じられる飾り物がある。ペランダは広く中庭があり、屋根つきの散歩コースにもなり、下を見ると保育園児の活動を見ることが出来る。浴室は半埋め込みで2面介助ができ、エアコン、床暖房、パネルヒーターで寒暖の差を予防している。浴室は洗濯室の奥にあり、引き戸で仕切られているため、プライバシーも守られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル・椅子、ソファを置いて、好きな場所でくつろぐことができる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時やカンファレンスの際に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品を準備して頂くをお願いしており、各利用者様の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	エアコンと床暖房が入っており、寒さを感じることはない。ベッドと洗面所は備え付けられており、トイレは広く、手すりがあり使用しやすい造りとなっている。なじみのダンスやイス、好みの洋服が吊るされ、壁には孫と一緒に撮った写真や外出時の写真、手作りの作品などが飾られていた。ペランダには物干しがあり、自分で洗濯物を干す方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々の様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		